



## 新規沈殿藍の開発



### 1. 背景

沖縄で古くから藍染に使用されてきた琉球藍（沈殿藍、泥藍）は、年毎に品質や生産量が異なることがあるが製造販売者がそれらを分析していないため、品質が不明なまま流通しており、利用者は開封するまで、または藍建作業の段階や染色するときまで沈殿藍の品質や供給量が把握しづらい状況にあるという。また、品質向上と並行してこれまでの琉球藍にはない紫色の製造技術を確立することで琉球藍関連産業への波及効果も期待される。



### 2. 目的

明確な規格基準（自社基準）を有し安定品質の「高濃度琉球藍 濃紺」、「高濃度琉球藍 紺」、「高濃度琉球藍 紫」として製品化すべく、徳島県が開発したタデアイからインジゴ高含有顔料を製造する技術（特許出願技術）を応用し、琉球藍葉を用いた高濃度沈殿藍の製造技術を確立するとともに、商品力だけに頼らないビジネスモデルの構築と事業戦略の策定と収益化を目指した。



沈殿藍製造工程



### 3. 概要（開発成果）

琉球藍葉を用いてインジゴを30%以上含有する高濃度沈殿藍の製法を確立（通常の藍は3～5%程度）するとともに、沈殿藍および高濃度沈殿藍の品質について自社規格を確定。藍染事業、藍染製品企画販売事業の戦略の策定に繋がった。



### 4. 成果物と今後の展望

開発した紫沈殿藍を事業化すべく、スケールアップした製造条件の検討、染色技術の開発に取り組むとともに、本事業で確立した高濃度沈殿藍の製造技術をブラッシュアップしつつ、通常の梅雨時期と秋の2回行われる沈殿藍生産に加え、冬場の生産技術の確立も目指す。

自社のアパレル事業との相乗効果の発揮、琉球藍に関する情報と技術の蓄積、藍染製品のブランド展開などに取り組み、琉球藍の認知度向上に努めていくとしている。